

— 若年女性を取り巻く現状 —



特定非営利活動法人 BONDプロジェクト

BONDプロジェクトの概要



「10代20代の生きづらさを抱える女の子のための支援」

困難を抱えた少女たちにとって相談しやすい環境をつくり、虐待、性暴力、望まない妊娠・出産、非行、依存症、自傷行為、ひきこもりなど『生きづらさ』を抱えた少女たちの声を聞き続けている。

繁華街での声かけ活動のほか、相談対応を通して一人ひとりをエンパワメントするとともに、専門機関との連携、同行支援、緊急時の一時的な保護を実施している。

2009年設立。渋谷を拠点に活動。

活動内容

電話相談: 毎週火・木・日曜日16時から19時
毎週水曜日22時から翌4時

面接相談/同行支援/緊急時の一時的な保護: 随時対応

メール相談: 24時間受付



BONDプロジェクトに届く声

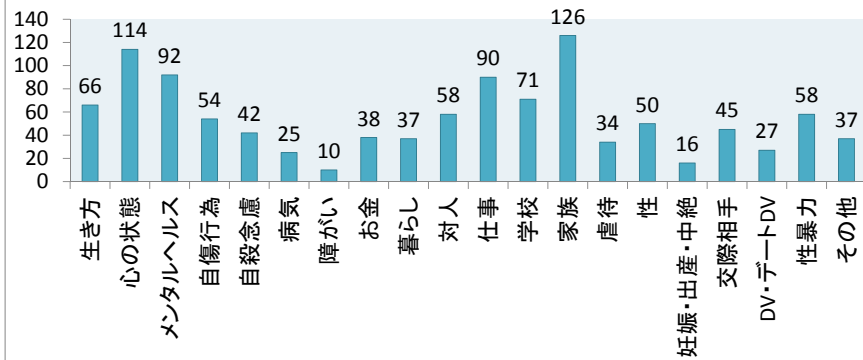


相談件数

(H27年1月～12月)

電話: **2014**件 面接: **576**件 メール: **13531**件
保護: **278**件 同行支援: **20**件 他機関連携: **153**件

相談内容(複数回答)



平成27年度bond Project@あらかわ電話相談データより

JKビジネスの実態



JKカフェ、JKバー、JK散歩、JKのぞき部屋、出会い系カフェ、援助交際...

「JKビジネス」という言葉のマジック

- ・言葉の響きが柔らかく「ラクして安全にお金がもらえそう」と少女たちが感じる。
- ・安心・安全・高待遇を謳う求人webサイト。
「盗撮被害を出さないためのセキュリティ完備」
「法律を守って〇年以上営業している安心な店」
「客との接触、会話、接客なし」

少女たちが感じる「ゆるさ」

- ・無料アプリを使った応募、連絡
- ・履歴書不要
(学生証など身分の証明できるものは確認される。)

援助交際、少女買春からの流れ

- ・グレーゾーンの性風俗。
- ・性の切り売り。



●17歳

「コンビニの面接を受けたが立て続けに不採用となり、**高校生カフェ**でバイトを始めた。しかし、店長に『チラシを全部配ってこい』と叱られたことで嫌になり、辞めたい。」と連絡が入り面談実施。

聞き取りを行ったところ、客から**ストーカー被害**を受けていたこともわかった。

<背景>

- ・家庭不和、ネグレクト
- ・生活費、学費の工面。高校を卒業したいという強い希望。

●18歳

「**見学店**でバイトをしているが、知人に心配され辞めるよう説得された。しかし、店側から出勤するようしつこくLINEがくるため断ることができない。」と相談を受けた。

<背景>

- ・親子関係の不和
- ・妹(16歳)もJKカフェで働き出した。

●16歳

「家の都合で引越しが多く、友達がなかなかできなくて寂しい。」と相談を受けた。

面談を行うと、**出会い系アプリ**にはまり、**援助交際**をしていると話した。**制服**を着てホテルへ行こうと誘いを受けることもあるという。

<背景>

- ・両親の離婚、親子関係の不和。
- ・自己肯定感の低さ。

●18歳

「**15歳**の頃から**援デリ業者**に登録して働いていた。その頃の話聞いてほしい。」と連絡があり、面談実施。

聞き取りを行ったところ、**援デリ狩り**や、医者客に媚薬を無理矢理注射されるなどの被害にあっていたことがわかった。

<背景>

- ・親の借金、貧困。
- ・親が風俗関係の仕事に就いていた。

なぜ相談に至らないのか

- ・相談窓口の情報を知らない、知識がない。
- ・公的な機関への相談はハードルが高いと感じる。
- ・大人への不信感(否定されそう、理解されなさそう)
- ・自己肯定感が低い(自分が悪い、自分なんかどうなってもいい、自分が相談していいと思えない)

必要と考える制度、支援機関

- 1、性被害直後の緊急支援を担う
「**性暴力被害者ワンストップ支援センター**」
- 2、性被害後の中長期的なフォローを含めたトータルサポートができる
「**相談センター**」
- 3、緊急的な避難に対応できる「**シェルター**」
行政の支援を受けるまでに時間がかかり、二次被害にも繋がる。

現場における課題

- ・少女たちへのリテラシー教育